

# 新人看護職員の皆さまへ



活用しよう！「看護職の倫理綱領」「看護業務基準」

日本では少子超高齢化の進行や医療の高度化などにより、医療・介護ニーズは増大するとともに多様化・複雑化し、従来の病院完結型から地域完結型への移行など、看護職を取り巻く環境は変化し続けています。こうした変化によって、近年、看護職が活躍する領域や場は広がっており、専門職である看護職が求められる役割を發揮し、社会的な責任を果たすためには、職業倫理や基準・ガイドラインなどの基盤が必要となります。

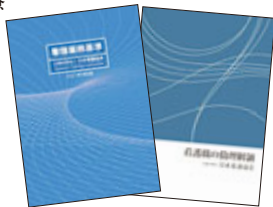
日本看護協会では、自らの行動を規定する「看護職の倫理綱領」や、看護職の責務を記述した「看護業務基準（2021年改訂版）」を、全ての看護職に共通する、看護のよりどころとなるものとして作成しています。

## 「看護職の倫理綱領」

「倫理綱領」とは、専門職自身が専門職集団内部の人間の行動を規定する文書であり、専門職を専門職たらしめる非常に重要なものです。

本会の「看護職の倫理綱領」は、「あらゆる場で実践を行う看護職を対象とした行動指針」であり、「自己の実践を振り返る際の基盤を提供するもの」「看護の実践について専門職として引き受ける責任の範囲を、社会に対して明示するもの」（「看護職の倫理綱領」前文）として、前文と、本文16項目で構成されています。

新人看護職員の皆さまが、看護を提供するさまざまな場面で振り返りやよりどころとしてご活用ください。



## 「看護業務基準（2021年改訂版）」

「看護業務基準」は、「働く場や年代・キャリア等にかかわらず保健師、助産師、看護師、准看護師全てに共通する看護の核となる部分を示す」（「看護業務基準（2021年改訂版）」はじめに）という考え方にに基づき、看護職の責務を記述したものです。

看護実践の場が多様化している現在でこそ、看護実践の核となる部分がどのようなものであるか明確にすることや、さまざまな状況下で実践される看護の質を担保することが必要であり、「看護業務基準（2021年改訂版）」では、その核となる看護職の責務を看護実践の要求レベルとして示しています。

就職して間もない新人看護職員の皆さまが、自分自身の日々の看護に迷うような時には、ぜひ、専門職としての看護業務を考えるための視点としてご活用ください。

◆  
なお、日本看護協会のインターネット配信研修[オンデマンド]では、これらの理解をより進めるための研修も行っています。ぜひ専用サイトよりお申し込みください。

■研修番号 134：【JNA ラダーレベル I 到達のための研修】日常生活場面で理解する看護職の倫理綱領と看護業務基準 2021 改訂版

■申込先：日本看護協会インターネット配信研修 [オンデマンド]専用サイト (<https://od.nurse.or.jp/>)

「看護職の倫理綱領」と「看護業務基準（2021年改訂版）」の全文は、  
本会 HP からダウンロードできます。

○本会 HP「看護実践情報」>「看護倫理」>「看護職の倫理綱領」（PDF）



○本会 HP「看護実践情報」>「看護業務基準」>「看護業務基準（2021年改訂版）」（PDF）

